

提供日 2019/08/09  
 タイトル 感染症「百日咳」が流行しています。  
 担当 健康福祉部 医療健康局疾病対策課  
 連絡先 感染症対策班  
 TEL 054-221-2986



## —危機管理情報—

### 「百日咳」の報告数が増加中です！

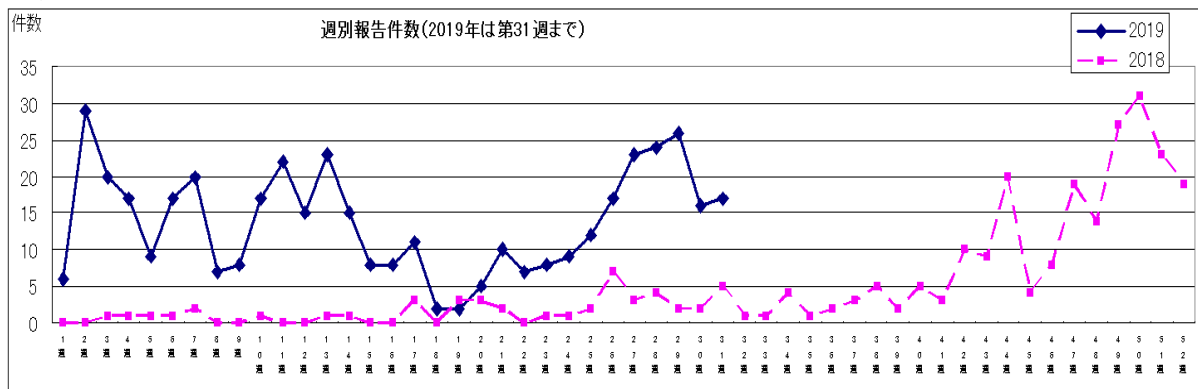
「百日咳」は、特有の連続する咳を特徴とする急性気道感染症で、患者の咳やくしゃみで感染します。発症しても年長児や成人では長引く咳のみで命に関わりませんが、**百日咳ワクチン未接種の新生児や3か月未満の乳児では重症になり、死亡する危険性**があります。

百日咳の県内報告数は2019年6月末から増加しており、1月から8月4日(第31週)までの百日咳の報告数は430件で、**昨年1年間の258件の約1.7倍**に達しています(全国では、今年の報告数は10,110件で、昨年の12,104件の約84%です)。

県内で報告数が多いのは**東部保健所管内**の187件、**静岡市保健所管内**の118件です。

県内患者の年齢分布は、**10～14歳が138名(32%)と最も多く、次いで5～9歳が128名(30%)**となっています。0歳児は、22名報告されていますが、最近2か月の間に、新生児や乳児の百日咳の重症例4名が県立こども病院で集中治療を受けています。

今後も百日咳の流行が継続する可能性がありますので、**感染防止対策と早期受診**に努め、**県内の赤ちゃんを百日咳の感染から守りましょう。**



#### 【症状等】

○熱はなく、風邪様症状からしだいに咳が著明になり、典型的には**連続性の咳**が認められますが、新生児や乳児では無呼吸発作で始まることもあり、年長児や成人では典型的な連続的な咳は認められず、長引く咳だけのことも多いです。

#### 【治療等】

- 治療は、マクロライド系抗生物質の**1週間の内服**が推奨されています。
- 受診や診断が遅れると、抗生物質治療をしても咳が2,3か月続きます。
- 抗生物質の内服開始後**5日が経過するまでは他の人に感染させる力**があり、登園・登校できません。また、無治療の場合は発症後3週間感染力が持続します。

#### 【ワクチン、免疫等】

- 百日咳は**ワクチンでのみ**予防できます。
- 一度百日咳にかかった人でも**終生の免疫はつきません**ので、百日咳に再び感染することがあります。
- 四種混合ワクチンには百日咳ワクチンが含まれますが、定期接種の4回では、免疫防御効果の持続が短く、8割のお子さんで小学校入学までに百日咳の抗体が低下します。

#### 【県民のみなさまへ】

※百日咳の感染拡大を防ぐには

- 生後3か月になったら、速やかに四種混合ワクチンを接種しましょう。
  - 年長児や成人で長引く咳がある方は、医療機関を受診し百日咳の検査を受けましょう。
- ※重症化する赤ちゃんへの百日咳の感染を防ぐために
- 赤ちゃんのケアをする家族、医療従事者、保育関係者が百日咳の感染源にならないことが重要です。長引く咳は、可能な限り早く百日咳の検査を受けましょう。
  - 咳がある間は、手洗いをしっかりし、マスクをして赤ちゃんと接しましょう。
  - 小中学校等で百日咳が流行し、家庭に持ち込まれ赤ちゃんに感染します。  
長引く咳がある児童・生徒は、夏休み中に診察を受けましょう。